

## スペインの新聞天気欄\*

北 島 尚 子\*\*

スペインを旅行した際に、現地の新聞を何部か持ち帰った。それらの新聞の天気予報欄が日本のそれとはかなり異なっており、また新聞によっても独自の図版を用いるなどして個性があるので、一部を紹介する。

### 1. 天気予報・解説

まず、たいていの新聞の天気予報欄には、一番上に担当者の本名またはペンネームが記されている。同じ日の天気予報でも新聞によって予報が異なっているところを見ると、この担当者がかなり自由に（しかし責任を持って）予報を作成していると思われる。

天気予報については各紙とも、テレビの天気予報で見られるような「天気予想図」（2項参照）を大きく掲載しており、予報の概略は一目で分かるようになっている。

解説文としては、スペイン全国、あるいは各地方ごとの天気の変化と気温の予想がかなりのスペースを使って書かれている。解説文中に気圧配置の解説があるのは今回入手したもののうち1紙のみ（El País）で、また日本によくある歳時記的な文章などは全くなく、予想される天気現象のみを解説することに徹している。以下に1990年9月21日の新聞を例として、いくつかを部分的に訳してみた。なお、新聞ごとの単語の違いなどを表現するためにあえて直訳とした部分がある。

#### (1) El País 紙

（見出し）山地は曇り、沿岸部は霧

アゾレス諸島の北西に中ぐらいの強さの高気圧がある。イベリア半島の北西方向から広がっており、全国的に気圧が高くなっている。ノルウェーの南には非常に発達した低気圧がある。

【アンダルシア地方】 全域とも大体晴れの天気になる。大きな河川の流域では午前中霧が出る。風は穏やか。気温は昨日より少し高くなる。最高35度、最低16度。

【カンタブリア海沿岸・ガリシア地方】 カンタブリカ山脈・バスク地方・カンタブリア地方では雲が多い。ガリシア地方南部では雲は出にくい。午前中は霧が出る。弱い北西風が吹く。気温は昨日より少し低くなる。最高26度、最低10度。

（後略）

#### (2) El Mundo 紙

（見出し）残暑

まだ夏ではあるが、今月の特徴は非常に天気が変わりやすいことだ。雷雨やにわか雨の後には天気は回復するが、たいてい晴れて暑くなる。北東部や山地では雨が降るだろう。

【アストウリアス、カンタブリア、バスク地方】（最高25度、最低17度）霧または低い雲が出て、小雨を伴う。気温は昨日より低い。

【アンダルシア地方】（最高34度、最低18度）晴れで東部は雲も出る。気温は昨日より高い。

（後略）

#### (3) Diario 16紙

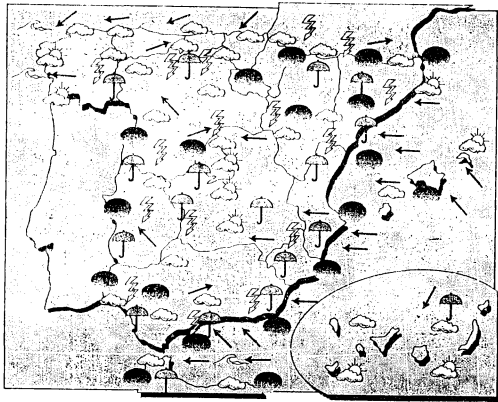
（見出し）特記事項なし

エbro川上流、ピレネー山脈、カタルーニャ地方北部及びバレアレス諸島で荒れ模様の不安定な天気だが、イベリア半島のその他の地方やカナリア諸島では乾燥した晴れの天気が続くだろう。ただしこれらの地方では、一部で雲が多くなったり快晴になったり、日中の最高気温がますます高くなったりもするだろう。穏やかな内陸部の低地や沿岸部では、朝の初めの数時間のうち霧やもやが発生するだろう。

【アンダルシア地方】 最高28度から34度、最低16度から22度。暑くて、ほとんど雲がないか快晴の天気が続くだろう。沿岸部では朝のうち霧かもや。東風。弱いうねりがある。

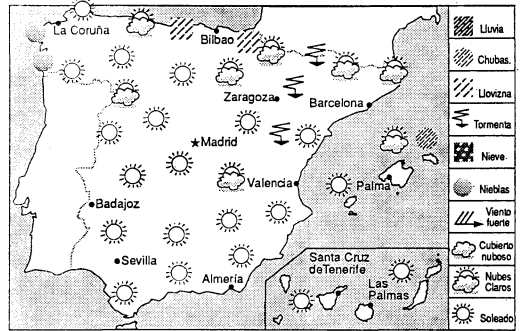
\* Weather forecasts in newspapers in Spain

\*\* Naoko Kitabatake, 気象庁予報部予報課



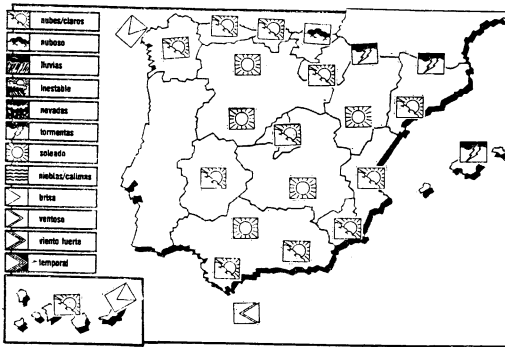
第1図 天気予想図 (El País 紙, 1990年9月17日)

天気記号の意味は、左から順に「晴れ渡った」「雲と晴れ間」「雲に覆われた」「雨」「にわか雨」「小雨」「雷」「凍った」「霧」「風向」「うねり」「高波」「雪」がないが、あるいは「雨」と「凍った」を組み合わせるのかもしれない。



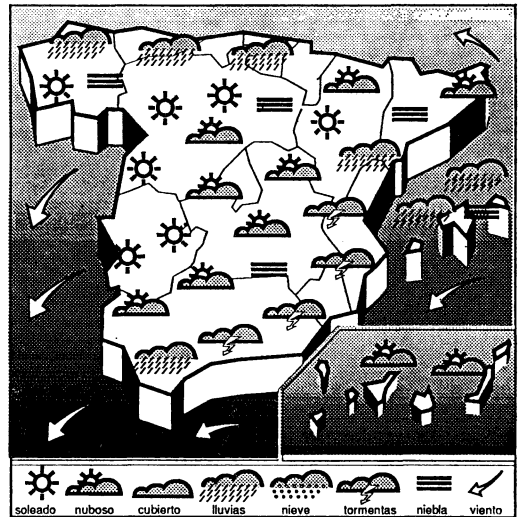
第2図 天気予想図 (El Mundo 紙, 1990年9月21日)

天気記号の意味は、上から順に「雨」「にわか雨」「小雨」「雷」「雪」「霧」「風向風速」「雲に覆われた」「雲と晴れ間」「日が当たる」。



第3図 天気予想図 (Diario 16紙, 1990年9月21日)

天気記号の意味は、上から順に「雲/晴れ」「雲の多い」「雨」「不安定な」「雪の積もった」「雷」「日が当たる」「霧/もや」「微風」「風が吹きやすい」「風が強い」「一時的に風が強い」。



第4図 天気予想図 (La Gaceta de los Negocios 紙, 1990年9月17日)

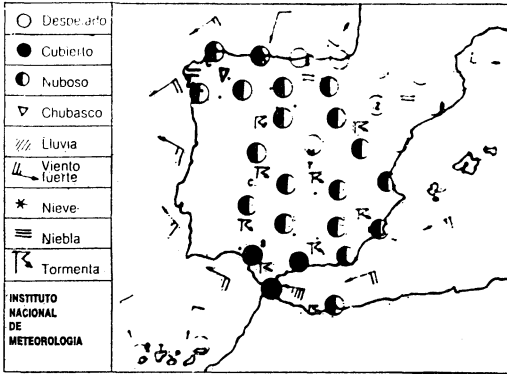
天気記号の意味は、左から順に「日が当たる」「雲の多い」「雲に覆われた」「雨」「雪」「雷」「霧」「風向」。

[ガリシア地方] 最高24度から28度, 最低12度から15度. 部分的に雲の多い, 非常に温暖な天気. 朝のうち霧やもや. フィンステル岬では風が強い. うねりが高い. (後略)

2. 天気予想図 (図1~6)

前項で述べたように予報や解説の内容・形式が自由な

だけでなく、図版が個性的であることが目を引く。ピカソやガウディといった近代・現代の芸術家を輩出した国の面目躍如といったところであろうか。また、図版につけられた天気表現する単語の選択もすこしづつ異なっていることに注意してほしい (例えば「晴れ」「曇り」を表現する単語が1種類に統一されていない)。さらに、日本では天気予報用の図版としてはほとんど採用さ

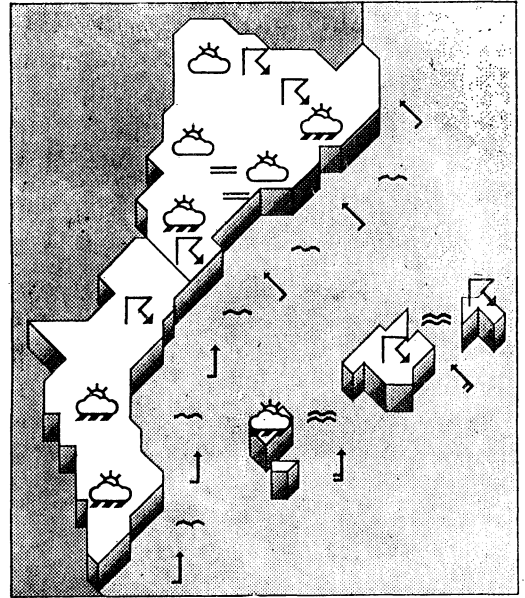


第5図 天気予想図(Cordoba 紙, 1990年9月19日)  
 天気記号の意味は, 上から順に「晴れ渡った」「雲に覆われた」「雲が多い」「にわか雨」「雨」「風向風速」「雪」「霧」「雷」.

れない「雷」「霧」などがあることにも注意。  
 なお, 図1~4が全国紙であるのに対して, 図5はアンダルシア地方の地方紙である。この新聞の天気欄には署名がなく, 図に INSTITUTO NACIONAL DE METEOROLOGIA (国立気象研究所) の名が見え, また FAX で受画した図をそのまま印刷に回したような不鮮明な図であることから, 公的機関発表の情報をそのまま使用していると思われる(ちなみに, この地方は観光以外に目立った産業がない, 比較的貧しい地方として知られている)。また, 図6はバルセロナを首都とするカタルーニャ自治州の地方紙である。この州はスペイン語のほかにカタルーニャ語が公用語とされているなど, 独自の文化を持っていることで知られている。

3. 気圧配置図

日本では天気図と呼ばれ, 新聞でもテレビでもこれが必要なければ天気予報の解説はできない思われているほどだが, これを掲載しているのはごく少数である(今回入手したものの中では6紙中2紙のみ)。それさえも, 実況解析図なのか予想図なのか, 何時の図なのか全く書かれていないという, 日本では考えられない掲載の仕方であ



☀	Assolellat	⚡	Tempesta	—	Mar plana
☁	Núvols clarians	☁	Ruixats	~	Mar arrossada
☁	Ennuvolat	☁	Neu	≈	Marejol
☁	Tapat	↙	Vent	~	Maregassa
☁	Pluja	≡	Boira	≈	Mar grossa

第6図 天気予想図 (Diari de Barcelona 紙, 1990年9月15日)  
 これはカタルーニャ語で書かれているので記号の意味は筆者には翻訳できない。しかし読者諸氏には既に大体の意味はおわかりであろう。

ある。また等圧線や前線の引き方も, 職人肌である日本の気象庁のベテラン予報官が目をむいた代物である。気圧配置図が掲載されていてもこれについての解説が全くない新聞もあり (El Mundo), 読者がどの程度気圧配置図を見ているのかは疑問である。もっとも, 天気予報のプロであっても, 地上気圧配置図1枚では予報は出せないのであるから, 一般向けには天気現象の解説さえ詳しく書いてあれば気圧配置図は必要ないということかもしれない。